

今年の夏は穂高に行こう！

春先にそんな話をしていたが、3連休の度に天気が悪くとうとう実現しなかった。

最後の3連休にどうにか行けないかと思っていたものの3日間天気が持たなそうと言うことで、比較的天気が良さそうな八ヶ岳へのテント山行となった。

八ヶ岳の場合ベースキャンプ型で歩けるので、2Hテントを担げば良いのでありがたい。

金曜日の夜に赤岳山荘まで入って行くと、既に多くの車が止まっていた。

3連休なのでこんなものなのか？

10月08日(土) 曇り一時晴れ

美濃戸 6:50—行者小屋 9:30/10:10—中岳のコル 11:10—阿弥陀岳 11:50/12:35—中岳のコル 13:10—行者小屋 13:55

朝起きると、隣の車の人が支度をしていた。

ヘルメットを持っているので登攀に行くのだろうか？



2日分の駐車場代 2,000 円を払って出発する。

行者小屋までは 2H 強、今回は初日に阿弥陀岳に登る予定にしたので、赤岳鉱泉のテント場ではなく行者小屋のテント場泊りとした。



9:30 行者小屋に着くと、既にテントがいくつか張られていた。

早速幕営料 4,000 円を払ってテント設営に入る。

テント 1 名 1,000 円くらいだったのが、いつの間にか上がっている。

國保に聞くと「1 人 2,000 円は最近の相場ですよ」と言われてしまいます。



10:10 テントに鍵をかけて阿弥陀岳へと向かう。

最近では物騒でテント毎盗まれることがあると聞く、山の中でテントやシュラフが突然無くなってしまったら死ねと言っているようなものなのだが...

中岳のコルへ登りだすと曇ってきてしまう。さっきまで赤岳や阿弥陀岳が見えていたのが嘘のようである。
中岳のコル手前は崩れたのかルートが若干変わっていた。
ヘルメットを被って歩いている人が多い。安全の為にアリだと思いが時代が変わった印象を受ける。



阿弥陀岳へ向かって登りだす。
立派なハシゴがかかっているが、細かな石は落ちてくる。
これだけ登山者が多いのだから仕方がない。
12:00 阿弥陀岳山頂に到着。
雲だらけ、赤岳が全く見えない。
コーヒーでも沸かして待っていたらその内雲が流れるのではないかとということで、昼食タイムに入るが晴れて来ない。
諦めて下山を開始したら、途中でガスが飛んで多少景色が見えるものの赤岳は姿を現さずに終わってしまった。
こう言う日は、早くテントに戻って小屋で生ビールを飲むしかない。



13:55 行者小屋到着。
荷物を整理して、つまみを持って行者小屋のベンチに陣取って生ビールを飲む。
生ビール 1,000 円、生ビールの値段は変わっていなかった。
しばらくノンビリした後、テントに戻ってゆっくりして、早めに夕食をとってさっさと寝た。
夜中に起きたがかなり冷え込んでいる。



10月09日(日)曇りのち雨

行者小屋 6:00—赤岳鉱泉 6:30—硫黄岳 8:30—横岳 10:00—赤岳 12:00—行者小屋 13:15/13:50—美濃戸 15:50
5時起床。

朝食をとって6時出発。

天気は回復していて八ヶ岳の山々が綺麗に見える。

今日は硫黄岳から稜線上を歩いて赤岳に向かう周回コース。

行者小屋に戻って来るのでテントは設営したまま行けることがありがたい。

赤岳鉱泉を経由し硫黄岳へと向かう。



途中茅野だろうか？麓の街が見え、その先に御岳山？が見えている。

赤岩の頭まで登ると北アルプスの山々が綺麗に見える。

穂高や槍ヶ岳の辺りは、少し白くなっているのが雪が降ったのだろう。



硫黄岳山頂到着。

風が強く寒いので長居をせず硫黄岳山荘まで下り、朝のコーヒータイムに入る。

今のところ天気は良く、山々がきれいに見える。



しばらく休憩した後、横岳へと登りだす。

途中大同心に登っているパーティーを見つける。

既に核心部は抜けていて最後の1ピッチ手前まで登っていた。

横岳へは新たに直登して行く梯子がかかっていた。

結構高度感があるので気持ち良い。

横岳山頂は人が多かったのが、休憩せずにそのまま進む。



地蔵の頭までが今日のルートの注意箇所、そこさえ抜ければ一安心できる。
地蔵の頭で、地蔵を下るか赤岳に登って文三郎を下るかを國保に再確認する。
予定の時間通り来ているので、計画通り赤岳経由で文三郎を下ることとし、赤岳の登りに取り掛かる。
雪の時期だと歩きやすいのだが、この時期だと岩がゴロゴロしているので歩きにくい。
まあ 1H 頑張れば山頂なので黙々と登って行く。



12:00 赤岳山頂に到着

小屋の脇のベンチで小休止、雲が多く景色無し。

西から冷たい風が吹き上げて来て寒い。

休憩もそこそこに出発する。

午後に入ったのと明日の天気が悪いこともあって、既に文三郎を登って来るパーティーが少なくなっていてすれ違い待ちが殆どない。

休憩するポイントも無いので、文三郎尾根をどんどん下ることになってしまった。

水が飲めず喉はカラカラ、阿弥陀岳との分岐まで下りてザックを下して水を飲み一息つく。

あと10分で行者小屋、あとは TENT を撤収して下るだけである。



13:15 行者小屋到着。

雨が降る前に帰って来れ、テントを濡らさずに良かった。

雨は16時くらいからと言っていたので、急いでパッキングして下山を始める。



広いガレ場を過ぎ、樹林帯に入ったところでポツポツと雨が降り出してしまふ。
予定より1H以上も前に雨が降り出したことになる。
赤岳山頂でコーヒーを飲んでいたら、テントの撤収も間に合わなかったかもしれない。
しばらく進むがザックカバーをかけるために一旦停止。
準備をしていると更に雨が強くなって来ているようなので、カッパを着て完全な雨支度で下りだす。
あと2Hもってくれば雨に濡れなくて良かったのだが...
鉄のメッシュになっている階段で滑って大転けする。
登る際に「ここ、雨が降ったら滑るよね..」そう言っていたのだが注意力散漫になっているのか？
気を付けなければ...
堰堤が見えてきてゴールが近づいている。
美濃戸山荘に出て林道を赤岳山荘へ向かう。
赤岳山荘の駐車場まで帰って来た。
車がぐっと減っている。
身体が冷えたので温泉に寄って温まって帰ることにする。
中央道は20km以上の渋滞。
今日も下道で帰るしかないか...
久しぶりのテント山行、来年こそは天気にも恵まれて穂高に行けると良いなあ...

